

—令和4年度 教育活動目標—

I. 学生を尊重した教育実践と主体的学習の促進のための教育方法への取り組みを行うことで教育の質の向上ができる。

1. 常に学生を尊重した態度で接することができる。
 - 1) 教員から先に挨拶等の声かけを行い、学生と積極的にコミュニケーションを図ることができる。
 - 2) 学生への指導は、先ず学生の思いや意見を先に聞き、教員の考えを押し付けることがないように注意する。
 - 3) 学生が迷いや悩みを持っていることを察知した時は、面談等の時間を設けスクールカウンセラーに繋ぐことができる。
2. 研究授業を通して、教材研究に取り組むとともに他者の授業評価を行うことで教育の質の向上につなげることができる。
 - 1) アクティブラーニング、共同学習、プロジェクト学習等の教育方法を取り入れ、学生に参加型授業を提供することで学生の主体的学習力の向上を図る。
 - 2) 事前に授業評価についての自己学習を行い、研究授業参観後、授業評価を行う。

II. 各学年が、看護師国家試験対策に向けた取り組みを行うことで、学生の国家試験受験に対する意識を強化し、合格率の向上につなげることができる。

1. 各学年担当教員が自己学習時間の学習計画を事前に立て、学生が自己学習時間を有効活用できる。
2. 学生が、早期から看護師国家試験の出題範囲・出題傾向について理解できるよう各学年の国家試験対策ガイダンスを行い、低学年から国家試験問題に触れることができるよう学習計画を立案できる。
3. 各学年模擬試験の計画を立て、試験実施後の振り返り学習の方法について教授し、学生の模擬試験成績の向上がみられる。
4. 3年生の国家試験対策は全員の教員で行い、特に成績下位の学生の学習強化を図ることで100%合格を目指すことができる。

III. ルーブリック評価の考え方・作成方法・評価方法について、研修会の活用や自己学習を行い、理解することができる。また、自身の領域への導入に向けて具体的な方法を見出すことができる。

1. 令和4年度基礎看護学実習への導入に併せて、ルーブリック評価の考え方が理解できる。
2. ルーブリック評価表の作成方法や具体的な活用方法について理解できる。
3. 自身の担当領域への導入を見据え、設計図を描くことができる。

令和4年度 教育活動目標 自己評価結果 考察

1. 教育活動目標Ⅰについて：学生指導の際の教員の態度・主体的学習への取り組み

評価項目1～3は、主に学生に対する指導場面での態度についての評価項目であり、昨年度に引き続き同じ目標を設定している。評価平均点は3.7～3.8と昨年度同じ評価項目での平均点は微増している。どの教員も学生指導の際、学生を尊重してかかわる意識づけが継続してできていると評価している。しかし、学生からの訴えは昨年度と比較して増加しており、教員のかかわり方に不満をもつ学生が増加してきている。その都度学生及びかかわった教員双方と面接を行い、場合によっては第三者が同席して意見の相違について話し合いをもつ場を設け、改善に努めた。

評価項目4～8については、主に自身の授業や研究授業についての評価項目である。自身が担当する授業の教育方法について様々な方法を用い工夫する教員や授業評価の結果の満足度は平均3であり、おおむね達成できたと評価している教員が多い。今年度研究授業に2名の教員が取り組み、臨地実習のない時期に計画したため、ほぼ全員の教員が他者の授業を参観し、教材研究や授業方法の工夫などについて評価表を用いてフィードバックできた。また、自身の授業の在り方を改めて考える機会となり、次年度の授業に生かせるものと考えられる。評価平均点も一昨年度は研究授業に多くの教員が参加できず1.67ポイントと低い平均点だったが、今年度3.5～3.6ポイントと上昇した。

2. 教育活動目標Ⅱについて：学年ごとの看護師国家試験対策の取り組みと合格率の向上

各学年の自己学習時間の学習計画は、計画できた時期は効果的な学習への取り組みができたものと考えられる。しかし、計画できた時期とそうでない時期に差があり、平均は3.1ポイントである。特に学習の到達度を図る模擬試験後の振り返り学習の指導が平均2.9ポイントであり、低学年から看護師国家試験受験を意識した段階的な学習計画や学習への取り組み方法の個別的な指導について課題となっている。看護師国家試験合格率は、過去3年間は全国平均より低く、特に新卒者のみの合格率を見ても全国平均から大きく離されている。今後の看護師国家試験に対する取り組みの強化により合格率の向上を目指し、次年度以降も低学年からの学習への取り組みに指導を強化していく。

3. 教育活動目標Ⅲについて：ルーブリック評価方法の考え方・具体的な作成方法と活用方法の理解

ポートフォリオ学習やルーブリック評価についての理解は、学習会に参加し自己学習を深めたため、平均は3.4ポイントとおおむね到達できたと評価している教員が多い。しかし、リフレクションの意義や具体的方法について自身の授業に活用できたと評価した教員は2.9ポイント、ポートフォリオ学習やルーブリック評価を自身の授業に活用したと評価した教員は2.8ポイントといずれも低く、教員差があり、理解はしていても、自身の授業に取り入れるまでには至っていないことがわかる。そのため、次年度の課題となっている。